

## 令和7年度釜石市市政懇談会会議録【質疑応答・概要】

日時 令和8年1月27日（火）18時30分～19時45分

場所 甲子地区生活応援センター

参加者数 15人

### ■質疑応答

- ① 第六次釜石市総合計画後期基本計画について
- ② 釜石市立地適正化計画について
- ③ その他

【Aさん】

コンパクトシティは大筋として理解できます。その過程で不安なのは、人口が9万人ほどいたピークの時に作ったインフラがありますよね。そういったものもコンパクトになっていくと思ったときに、既にあるものをどのように整理・縮小していくのかなと思います。身近な例で言えば、福祉の森という公園があります。だんだんに市では管理できないと言われておりますが防犯の面でも不安があるので、市の考えをお聞かせください。

<保健福祉部長>

福祉の森は児童遊園として管理していきまして、子どもたちに遊んでもらえていない状況もあり児童遊園としては廃止しています。隣接する老人福祉センターがありその敷地の一環として地域福祉課で管理しているのが現状です。大畑町内会の皆さんには草刈り等いつもお世話になっています。今後のことですが、地域の意向に沿いながら景観を損ねない程度に対応していきたいと思っています。引き続きよろしく申し上げます。

<都市計画課長>

インフラがどのようにコンパクトになっていくのかという質問ですが、様々なパターンがあります。例えば、都市計画課では市内の都市公園は83か所、その他の広場等を含めれば約120か所を維持管理しています。先ほど説明したとおり人口92,000人が17,000人になるということであれば同じようにインフラも将来に向けて維持管理していくこと、本当に大変なことだと思っていますので様々な考え方、手法、皆さんの意見を伺いながらどういった形で本質的な管理、集約をしていくのか、今後議論していきたいと思っています。現時点ではお答えはできませんが、皆さんと協議しながら詰めていきたいと思っています。

【Bさん】

人口が減っていく中で、空き家・空き地がどんどん増えています。市の方と対策をお話し

しながら毎年やっていますが、ハクビシンが住んでいたり庭の木が隣の家にまで伸びていたりしています。税金もかかっています。その方に連絡して管理してくれと頼んでいます。やってくれるところとやってくれないところがあります。全然手が付けられない状態のところもあって相談しても、他の土地だから入ってはダメだとなってしまいます。そういうことがどんどん増えていくと思います。この間、風が強かったときも近所から苦情が来て車庫の屋根が飛んだと。連絡しても連絡が付かず、市に相談しても個人的に所有者を教えることができないと言われ、対策しなければ近所に被害が及ぶので仕方なく近所の 3 人ぐらいで屋根のトタンを剥がしたりしました。その対策はできないものなのかお聞きします。

#### <市民生活部長>

基本的に空き家は個人の財産ですので、その個人の方に権利があるわけですが、空き家が周辺の環境に及ぼす影響は非常に大きいものと捉えています。空き家の所有者には、空き家の適正な管理をお願いしているところです。空き家の所有者が不明で、空き家が非常に危険な状態で近隣に迷惑をかけている状況の場合は、最終的には行政代執行をやっていくこともあります。現在は、空き家の所有者の方々にお願いをしていくしかない状況です。市内には 1,000 戸近い空き家があると押さえています。個人の方で解体したい場合は、条件に当てはまれば補助金をお出しして解体していただく形になってはいますが、なかなか解体していただけない状況です。皆さんの生活環境を守るためにも空き家の所有者には粘り強くお願いしていくということが現状でしたので、ご理解いただけたらと思います。

#### 【Cさん】

地域は町内会で成り立っていると思うのですが、町内会の存続が難しくなっています。地域は 10 年、20 年したら崩壊するような状況です。この質問は野田前市長に聞いて、第六次総合計画に盛り込むと回答をいただきました。基本目標の中に盛り込んでいくべきではないかと考えています。先ほど市長が、地域会議や生活応援センターの体制を見直すような話もしていました。その時に地域はどうするのか。そういうところをきちんと話していただきたいです。これから後期を進めるわけですが、そういう部分も考えていただきながら、きちんとやっていただきたいです。

#### <総合政策課長>

ご指摘のとおり前期からコミュニティを維持していくことが課題としていまして、前期計画で取り上げているところです。基本計画の中で地域コミュニティを維持していきましょう、地域力を高めましょうと謳いながら向こう 3 か年の事業計画の中で具体的に事業を上げながら、全庁的に議論して対策を練って取り組んでいくこととしています。

#### <市民生活部長>

町内活動につきましては、町内会の存続が危ぶまれていると他の地区の市政懇談会でも伺っています。町内会は地域コミュニティを支える基礎の団体と認識しています。甲子地区の地区別計画の中にもありますが、「みんなで支え合う持続可能な甲子づくり」の下の方に「地域のよる取組（自助）」ということで、地域の皆さんでやっていただきたいことを掲載しています。それに叶わない場合は、互助・共助ということで「行政による取組（公助）」を記載しています。町内会の成り手がいないというお話をいただきますが、地域の皆さんでできることをやっていただいて、できないところについては応援センターや地域会議で協力しながら地域の課題を解決していけるような取り組みを進めていきたいと考えています。計画の方でも、主な施策として46ページの「みんなが参画できるまちづくりの推進」を掲載しています。そこに住まう人たちがプライドを持ってまちづくりに取り組んでいてもらいたいと思っていますので、市民生活部でも支援をして良い地域にしていけるようなお手伝いをしていきたいと思っています。

#### ■市長総括

本日はありがとうございました。人口減少時代における釜石のまちづくりがどうあるべきなのか等、様々なご意見をお伺いしたと思っています。昭和38年、92,123人の人口のときにあった公共施設等をあれから3分の1を切ってしまった釜石において、同じ公共施設の数、種類を持ち続けるというのはなかなか厳しい話だと思っています。昭和38年と比べるまでもなく震災の前年には、釜石の人口は4万人超えでした。それから12,000人ほど減少したところで、当時持ってた施設を現在持つことはかなり難しくなっているのが現実として言えるだろうと思っています。立地適正化計画の中でも、ある程度の国の方針のとおり合理的なまちづくりをすることを行政の方で考えないといけない一方で、周辺部に住む方々もそれぞれの人生観等も大切にしなければならないと思っています。どちらの方に傾いてもいけないのだろうと思っています。どれだけバランスの取れたまちづくりにしていかなければいけないのか、基本的には職員一同考えながら皆さんのご意見をお伺いしながら一步一步着実に歩んでいきたいと思っています。この2つの計画も、よりよい計画にしたいと思っていますので皆さんのご意見をお伺いしたいと思っています。今後とも釜石をよろしく願います。ありがとうございました。